

KOAらしさ  
報告書  
2022

投資家様

お客様  
お取引先様

地域社会

社員・家族

地球



# KOAからのメッセージ



1940年社長就任  
創業者

向山 一人

## 創業のビジョン

### 「農工一体」と「伊那谷に太陽を」

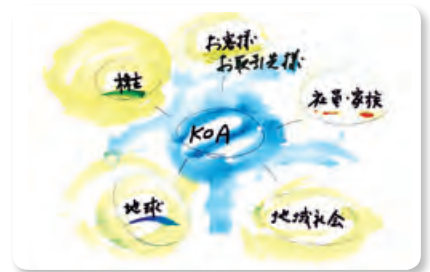
KOAは、かつて農村というコミュニティが崩壊していく中で、養蚕農家に生まれ育ったひとりの青年が農村の生活基盤づくりと安定した暮らしをこの地で実現しようと興した会社です。以来、創業者の「伊那谷に太陽を」という夢をかなえるために、「農工一体」というビジョンをめざし、経営が実践されてきました。お百姓がお百姓として暮らしていける環境をつくる、それが創業当時の時代の声でした。

## 企業のミッション

### KOAを支える「5つの主体」との信頼関係構築

そうした先人の意志を引き継ぎ、また今の時代の声に耳を傾けたとき、KOAは、株主様、お客様・お取引先様、社員・家族、地域社会、地球との信頼関係の構築に努めることを企業のミッションといたしました。KOAの経営は株主様をはじめとして、皆様とのご縁に恵まれ、お力添えをいただいで成り立っています。

KOAは皆様とお近づきになれたことに感謝し、お付き合いの中で学ばせていただきながら、これらすべての主体にとっての企業価値を高めるため、企業活動に取り組んでいます。



1977年社長就任  
現取締役会長

向山 孝一

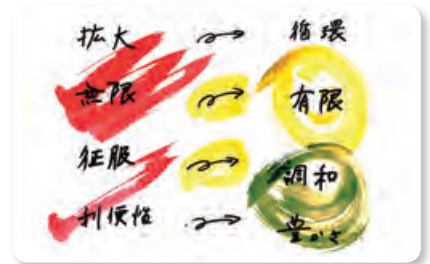
## 企業経営の価値観

### 「循環・有限・調和・豊かさ」

企業という存在が、過去にないほど大きな影響力を全世界的に、そして地球規模でもつに至った現在、的確な時代認識の上に立った経営・企業活動が求められていると私たちは考えます。20世紀は人口爆発に代表されるような「拡大・無限・征服・利便性」といった人類本位のコンセプトの時代であり、そうしたこのために人類のみならず地球上のあらゆる存在が存続の危機を迎えているのではないのでしょうか。

そんな時代の切なる声に対して、私たちは「有限」の考えに立ち、人類を生かしてくれている地球環境とそこに生を受けたすべての生きとし生けるものとの調和を図り、拡大から循環、利便性から調和の中での豊かさを求めるべきではないかと考えます。

KOAは企業経営の価値観を「循環・有限・調和・豊かさ」に置き、「地球あっての人類、人あっての経営」という空間(場)を、企業活動の中にできる限り設ける努力をしています。さまざまな人とのご縁あってこそKOAの経営が成り立つことを忘れずに、またその人類を生かしてくれている地球との調和を念頭にこれからも企業経営を進めてまいります。



2013年社長就任  
代表取締役社長

花形 忠男

## 『KOAらしさ報告書』について

世界はかつて経験したことのない大きな変化のなかにあります。これら社会課題の解決には、様々な主体間での対話がますます重要となっており、企業にも当事者として積極的な行動が求められています。この「KOAらしさ報告書」は、カーボンニュートラルなどサステナビリティへのさまざまな課題に対する具体的なアクションなど、一步一步着実に歩みを進める私たちのCSR・ESGに関する取組みをお伝えし、新しく創られるKOAらしさ、大切なものを守り続けるKOAらしさについて、少しでも皆様感じていただけることを願い作成しています。そして、よりよいKOAらしさについて皆様と対話を深めていきたいと考えております。



# 地球との信頼関係の構築 まあ〜るい地球の変化の中で



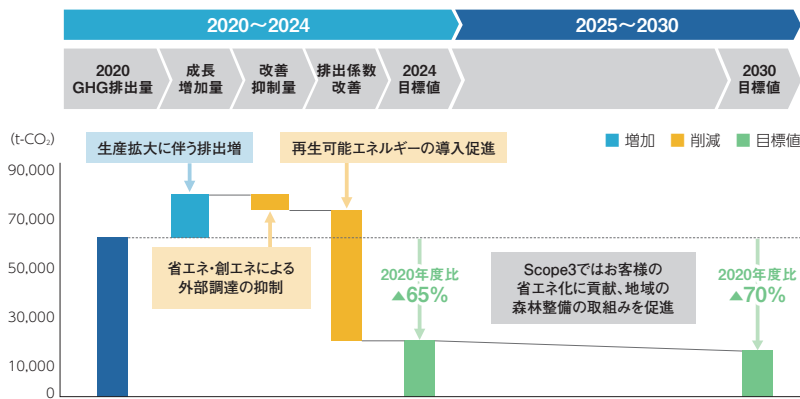
企業の事業活動は、幾ばくかの影響を地球に与えます。ならば、その影響を最小限にとどめ、地球の営みとの調和を図ることは、持続的な企業経営にとって必須の条件です。

企業経営に「地球」という言葉が使われるようになったのは比較的最近のことですが、KOAは約30年前から「地球あっての人類、人あっての経営」であるとの認識のもと、社内環境リスクの低減、循環型地域社会のモデルづくり、社内外での人材育成に取り組んでいます。

## カーボンニュートラルを目指して

2050年カーボンニュートラル社会の実現に向けて、世界や経済社会は大きな転換期を迎えています。脱炭素への取組みとして、モビリティの電動化や、グリーンエネルギーを使った社会インフラの投資が加速し、KOAを取巻く事業環境は大きく変化するとともに、新たな事業機会も生まれています。新たに策定したGHG (Greenhouse Gas: 温室効果ガス) 削減目標では、カーボンフリー製品の実現に挑戦すること、また、その取組みを通じて5つの主体との信頼を構築することを目指しています。

**2030年度目標** 2024年度までにGHG排出量 (Scope1&2) を2020年度比**65%削減**、**2030年度までに70%削減**



上伊那ビジネスフィールド  
高周波センター

ゼネラルマネージャー  
磯貝 和彦



地球規模で考えると待たなしの状態であると危機感を持っていたので、再生可能エネルギーへの切り替えに関して、高周波センターでは迷わず導入を決定しました。

しかし再生可能エネルギー導入にはコスト高という大きな課題があります。そこで、CO<sub>2</sub>換算という生産現場にとってわかりにくい指標ではなく、身近な指標である「コスト」に置き換えることで、インパクトのある数字が達成できるのではないかと考え、どうやってアプローチするかを部門のメンバーとともに検討しました。

今回思い切った決断ができたのには、社内のSDGs勉強会をきっかけに社員一人ひとりが社会課題を「自分ごと」として考える土壌ができていたこと、それらを話し合う文化ができていたことが大きいと強く感じています。再生可能エネルギー導入のその先へ、あらゆる手段を選択肢に入れつつ、社内の対話を大切にして、KOAらしい歩みを進めていきたいと考えています。

## 信州Greenでんき<sup>※</sup>で、県内使用電力を100%再生エネ化

2022年2月より、長野県下のKOAグループが電子部品の開発・製造に使用する電気は全て再生可能エネルギーでまかなわれることとなり、国内のCO<sub>2</sub>排出量の75%削減が実現。同様の電力メニューのない中国拠点の興和電子(太倉)有限公司においては、「グリーン電力証明書」を購入しました。様々な方法を選択肢に入れ、今後は他の拠点でも、順次再生エネ化を進める方針です。

※長野県の公営水力を活用した信州産のCO<sub>2</sub>フリー電力

× 大切にしていること ×

### 1 社内の環境リスク低減活動

KOAでは、環境改善活動を浸透させ、全員参加につなげる活動の要が内部環境監査と考え、継続的に強化しています。KOAグループ(国内)の内部環境監査員は、各部門に1名以上配置されるよう計画的に育成され、その数は200名を超え全社員の1割以上になります。毎年約80名の内部環境監査員が監査チームを組み各事業所を回り、改善点を発見し学びあう中で、活動のレベルアップを図っています。

### 2 自然環境と調和した事業経営

主力生産拠点の「匠の里」では、ギフチョウの食草ヒメカンアオイが育つ雑木林を社員が整備し、在来種のこの蝶を呼び戻す活動をしています。また、「七久里の杜」では、工場棟に昔ながらの採光の知恵である鋸屋根を採用し、ピオトープを設け、土地の気候を活かした省エネ対策も施しています。地域の風土との調和を大切にしたい考えは、2022年4月に竣工した鹿島興亜電工の新拠点「となみの庄」においても取り入れられています。

### 3 循環型地域社会のモデルづくり

KOAの事業所はそれぞれの所在地の特性を活かして地球との調和をめざします。近年では、気候変動に危機感をもつ地方自治体が「2050年ゼロカーボンシティ」表明を行い、「地域循環共生圏」がその解決策として掲げられています。その実現に協力すべく、エネルギーの地消地産化、里山の整備・活用など、これまで培ってきたノウハウやネットワークで、関係する自治体の計画づくりなどに参画を始めています。



# どこよりも明るく楽しい職場を作ろう



競争力、稼ぐ力の源泉は、人にあります。設備など形のあるノウハウもありますが、本当の強みは、社員一人ひとりの中にある学びと経験の蓄積であるとKOAは考えます。

KOAは、創業者の遺訓として人員整理を戒め、「どこよりも明るく楽しい職場をつくろう」を社是とし、社員と社員を支えるご家族の皆様が、KOAの社員でよかったと思っていただけるよう、健康で安心して働ける職場づくり、能力を一層高めるための人事・教育制度の整備などに努めています。人への投資は、競争力向上の鍵です。

## “人あつての経営”を実践する健康経営への取組み

2024中期経営計画では「未来を創造する人づくり」が重点施策の1つです。“人あつての経営”を大切にしているKOAでは、社員の健康管理を経営課題とらえて戦略的に取組む「健康経営」を推進しており、2022年4月には、経済産業省が主管する健康経営優良法人2022の認定を取得しました。今後も引き続き、社員やそのご家族の健康維持・促進のため、疾病予防やメンタルヘルス、健康増進に関する取組みを進めていきます。

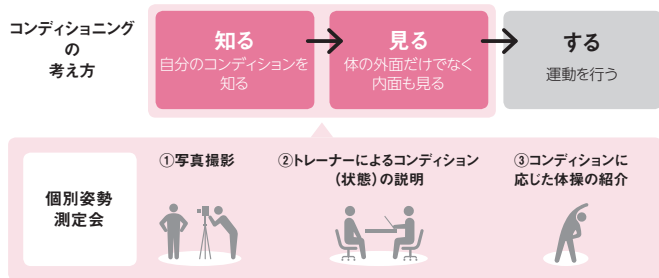
### 健康経営優良法人2022認定を取得

健康経営に取組む優良な企業が、ステークホルダーから社会的に評価を受けられるよう制定された経済産業省および日本健康会議による認定制度で、KOAは「大規模法人部門」で認定されました。



### コンディショニングサービスの活用で、運動習慣のスタート地点「意識づくり」に取組む

2021年度に10年目を迎えたKOAの社員や家族の健康づくり活動「愛のおせんしょ大作戦」は、2019年度より「第2ステージ」を開始。早期発見・治療の推進に加え、健康意識の向上を図り、自主自発的な健康づくりを支援する活動を行っています。株式会社BCFのコンディショニングサービスを活用し、2021年度は春と秋の健康診断に合わせて本社アースウイングで「個別姿勢測定会」を実施。自己のコンディショニングを「知る」ことを第一歩として、運動習慣の醸成に取組んでいきます。

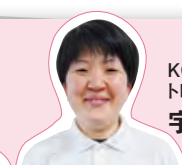


### 株式会社BCF

代表取締役社長  
関 賢一



KOA担当トレーナー  
宇治 春菜



私たちBCFは「最適なからだづくり(コンディショニング)」を企業理念として、最近では「社員が元気になることで会社も元気になる」という想いを大切に、エクササイズを通してからだの改善を提供しています。この考え方に賛同くださったKOAさんから熱心なお声掛けを頂きお付き合いが始まったのですが、一番初めにやらせて頂いたのは、実際に職場を見せて頂く事でした。訪問したパインパークは自然豊かで林間にウォーキングに適した道もあり恵まれた環境。一方で製造現場においては、作業効率を追求して動作を最少化され、高い集中力を要する作業も多く、肩こりなどのお悩みが見て取れる…KOAさんを知る事で、定めるべきゴールやアプローチがすぐに発想できました。

KOAさんが健康経営の目標にしている運動習慣づくりは、必要に迫られないとなかなか身に付かないものです。運動習慣のない人にはそのスタート地点として、ご自分の姿勢を知るところから入り、「知る・見る・する」と段階を踏んで進めることが大切です。進めていくカギは「声掛け」だと思います。KOAさんは“おせんしょ(おせっかい)”活動で実践されていますが、私たちと一緒に社員さん一人ひとりに寄り添って、次の段階に進めるようなお手伝いをさせて頂ければと思っています。

### 4 安心・安全な職場環境

新型コロナウイルスと共存する生活環境は、私たちのコミュニケーションの在り方に大きな変化をもたらし、働き方を大きく変えています。在宅勤務に対応した人事制度やIT環境の整備・情報セキュリティ対策などの働く環境づくりを行う他、社員一人ひとりの健康を維持するための支援など、この環境下においても社員とその家族が安心して働き暮らせるよう、取組みを進めています。

### 5 処遇(給与・賞与)

めまぐるしい環境変化の中で企業の成長と発展を継続するためには、社員一人ひとりの意欲と能力向上が必要不可欠です。そのために1996年に従来の年功序列重視の人事制度から能力・成果主義を中心に据えた制度への改革が始まりました。これにより、KOAの人事制度は、終身雇用は守りながら、年齢・性別などに関係なく、自ら能力を高め成果を上げた人が評価され、より高い処遇が得られる制度となっています。

### 6 働きがい(自己実現・教育研修)

時代の大きな変化に対応した働き方改革の必要性が高まる中、社員一人ひとりがキャリアビジョンを描き、その実現に向けた取組みと仕事のステップアップを結びつけることは、働きがいを感じるために極めて重要です。全社員がキャリアビジョンを描けるようになるための「キャリアビジョン研修」、管理監督者が部下の成長を促していくための「部下支援研修」を行うなど、社員一人ひとりの自己実現のサポート体制を充実しています。



〈 お客様・お取引先様との信頼関係の構築 〉

# 厚みと差異のある価値の提供



利益率を長期継続的に高めるためには、競争力を高めること、すなわち付加価値を高めることが求められます。KOAは、その製品、サービス、提案力等について、他には真似できない厚みや深みのある価値を提供します。

KOA製品は、車載ビジネス、高い信頼性が要求される用途などで特に強みを発揮しており、今後も当社の主力である固定抵抗器市場は活発な動きが予想されます。今後は、お客様と共に次のマーケットを「共創できる研究開発型企業へ」と進化してまいります。

## 社会を豊かに変える製品開発—KPS-3活動の推進

2030ビジョンの基軸となる取組み「KPS-3」では、世の中の変化や市場・お客様の変化から技術のイノベーションを考え、必要な製品や技術を仮説検証して提案する製品開発の在り方を目指しています。持続可能な社会の実現に向けて企業がビジネスの変革を求められる中、特に製造メーカーでは、抜本的に製品開発の方法を見直す必要に迫られており、KOAでは「製品パフォーマンス【環境】」活動を通じて、製品が持つ価値を高め・伝えていく取組みを開始しています。

### 社会課題の解決に貢献する製品とは

主要取引先である車載系マーケットのお客様にとって喫緊の課題である脱炭素への取組みは加速し、自社にとどまらず、サプライチェーン領域でのCO<sub>2</sub>削減を目指す動きが始まっています。さらに部品メーカーへは、循環型社会に資する製品開発の提案も求められるようになっていきます。KOAでは社会課題の解決に貢献する製品開発の第一歩として、製品設計の初期段階からその貢献内容を社内で評価し、結果を公表しています。

#### ● 該当製品（一例）

: イチオシ : 向上

製品名	リリース	評価項目				製品の特長	主な貢献内容
		① 小型軽量化	② 耐久性・耐候性	③ 機能性向上	④ 低CO <sub>2</sub> ・省資源		
金属板タイプのチップジャンパーTLRZ	2021/9					①面積比-75% (従来当社製品比) ④極めて低い抵抗値の実現によるエネルギーロス低減	・小型化、部品及び包装材の低減による天然資源の持続可能な利用推進 ・電流経路の抵抗値低減による消費電力削減
モールド面実装形巻線抵抗器MWS5	2021/6					①高信頼の巻線抵抗器の面実装化により面積比最大75%減 (従来当社製品比) ②耐ヒートショック ③電気特性向上(耐パルス性)	・小型化、部品及び包装材の低減による天然資源の持続可能な利用推進 ・過酷な環境下での故障リスク低減による安心の提供

技術イニシアティブ  
技術戦略センター

ゼネラルマネージャー  
赤羽 秀樹



お客様のお困りごとは何か?その先の製品のエンドユーザーや、そもそも世の中の困りごとは何なのか?そこに対してKOAはどのような解決策、つまり“価値”を提供できるのか?製品の企画において議論の範囲を広げ、製品創出のプロセスそのものを変革するのが「製品パフォーマンス【環境】」の活動です。KPS-3の活動にも「持続可能な社会への貢献」の考え方は折込まれていましたが、社会課題の解決による価値の創造という視点の導入により、今回、製品のパフォーマンスを評価して設計の構想段階に組み込むという、具体的なかつ全社的な取組みへ発展させることができました。

社員一人ひとりにこの取組みを理解してもらうための勉強会も実施し、2020年度には全技術者が修了。これまで製品特性など、競合との差別化を追求してきたメンバーにとって、“価値”から製品を発想することは大きなチャレンジでしたが、勉強会後は環境・社会の動きに関心が高まるなど、本質的で嬉しい変化も出ています。

この活動を通して将来は、お客様がKOAの“価値”を名指しで購入してくれるような、そして社会にとってかけがえのない存在になることを目指していきます。

大切コトを伝える

### 7 QCD (品質・コスト・納期)

KOAでは「一箇一個が私の保証です」を合言葉に、お客様にご満足いただくための改善活動を、製品、サービスのみならず、あらゆる業務のQCDIにおいて全員参加で推進しています。

一箇とは、一つ一つのプロセス(個々の仕事の集合したもの)、一つ一つの仕事、一つ一つの設備、一つ一つの動作を表します。  
又、一個とは、一つ一つの製品を表しています。この“一箇一個”という字は、お客様に満足してもらうための、全ての一つ一つを数える意味を込めて用いています。

### 8 提案力 (技術・新製品)

お客様にとって価値ある企業であり続けるため、KOAがその歴史の中で培ってきた設計技術、材料技術、加工技術、分析・評価技術といったさまざまな基盤技術を深掘りして連携させ、先端研究機関やパートナー企業様とのオープンイノベーションによって、お客様と共に創り出す新たな価値へとつなげていきます。

### 9 事業継続リスク対応

新型コロナウイルスのパンデミックに対し、当社の緊急事態対応計画に基づき、対策本部を立上げ、グループ一丸となって事業継続を図っています。クラスターを発生させないことを感染予防の基本とし、製品の出荷を可能な限り止めないよう刻々と変わる状況に対応しています。お客様対応では、Web展示会やITツールを活用したコミュニケーションなど、制限のある中で最大限のパフォーマンスを挙げられるよう柔軟に対応しています。



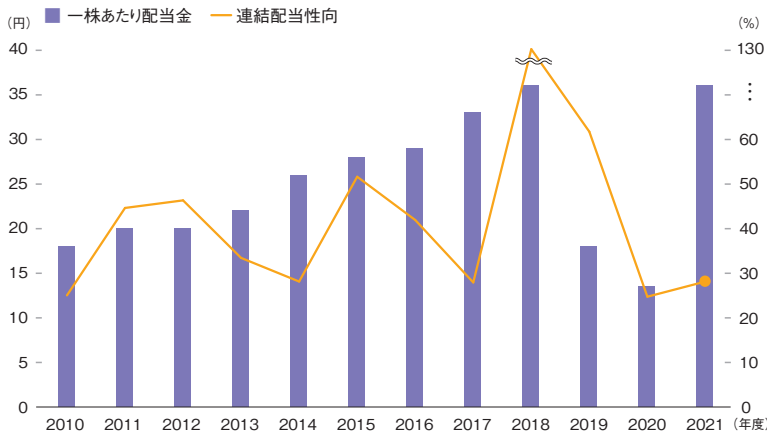
# 〈 投資家様との信頼関係の構築 〉 ずっと応援したくなる会社



株主である投資家の皆様にもまずお約束すべきは、事業活動による収益を継続的に還元することです。KOAは、ROE11%以上をめざす中期経営計画の実現を目標に置いて、将来に向けた投資を積極的に行い、利益率を長期持続的に高めてまいります。

また、収益以外の面でも将来性について継続的に期待でき、未永く応援していただける会社であるために、正しい倫理観に基づいた経営を行うとともに、あらゆるステークホルダーとの間に信頼関係を築き、果たすべき責任を果たしていきます。

## 配当金および配当性向の推移



### 社外役員の視点

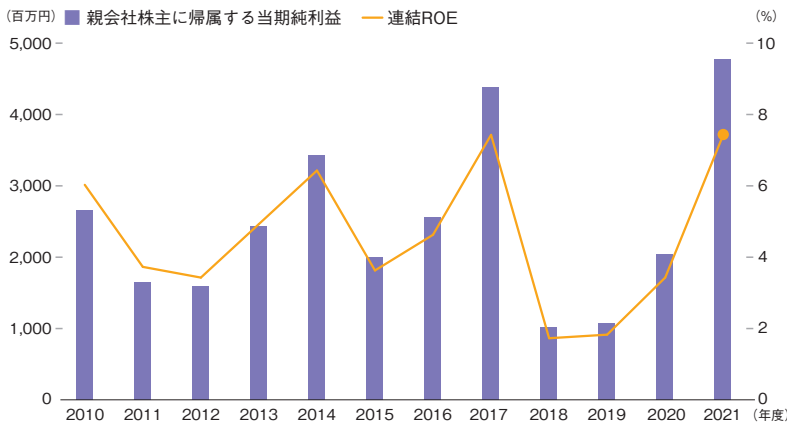
社外監査役  
飯沼 好子



2019年にご縁あって社外監査役となり、常に感ずるのは、役員をはじめ社員全員がミッション「5つの主体」との信頼関係の構築を基本とした活動を常日頃から行っていることです。それらの活動は、創業当時から脈々と培ってきたものであり、KOAの企業風土を形創り、近年注目を浴びているESG経営にも通ずるものです。企業を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、すべてのステークホルダーに満足を与えつつ成果を出すことの継続は、なかなかできることではありません。

抵抗器は一般の方の目に直接触れることがない小さな製品ですが、現代社会の中で欠かすことができない大切な部品です。プライム市場を選択したKOAが現状に甘んじることなく、更なる高み「2030ビジョン」に向けて活動・発信をおこなう一助を、社外監査役として果たしていきます。

## 親会社株主に帰属する当期純利益およびROEの推移



### 10 配当性向

当社は株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと考えており、今後の事業展開への対応を図るための必要な内部留保を確保しながら、安定的かつ継続的な株主還元を努めることを基本方針としています。

配当につきましても、配当性向は30%前後を意識しつつ、安定的かつ継続的に実施してまいります。

### 11 株価

固定抵抗器のリーディング・カンパニーとしてこれまで培ってきた技術力と新たな市場を切り開く開発力、そしてさまざまな社会的価値創造の活動に対する多面的な評価が、株価に適正に反映されるよう努めていきます。

毎年4月・10月に決算説明会を行い、多数の機関投資家・アナリストの皆様に参加いただいております。また、投資家の皆様との対話によりエンゲージメントを強固にする他、IR情報開示内容の改善を図っております。

### 12 ROE

品質・信頼性を重視する市場を中心に高機能製品を提供し継続的に競争力を高めるとともに、イノベーションの動向を予測し、そこで必要とされる技術や製品開発に経営資源を投入し、お客様と共に新たな価値を創造する活動を進めています。ROE8%を目指す中期経営計画が2021年度に終了し、新たにROE11%以上を目指す2024中期経営計画を策定しております。

- ・ ROE：自己資本利益率
- ・ ROE(%) = 当期純利益 ÷ 自己資本 × 100



KOA創業者は、伊那谷で電子工業の産地化を果たし、地域における人と土地、人と風土、人と人とのつながりを保ちながらふるさとの発展を期すべく当社を創業しました。「伊那谷に太陽を」とはそのスローガンです。

KOAの歴史は、たゆまぬ改善活動の歴史であり、そのノウハウを継承する社員は、多くが地域からの雇用によります。これは創業の地のみならず国内外の拠点すべてで同様です。その恵みを資本とし継続的に雇用を生み、一方で経済的文化的な還元でも地域とのご縁を深めることは、強いものづくりを維持します。

## 地域と共生する、地球と共生する

サステナビリティへの取組みの中でも、気候変動対策が企業にとって最優先課題として推進される中、次なる課題として生物多様性が注目されつつあり、2021年にはTNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)が発足、フレームワークの策定が進められています。自然関連リスクと機会を特定して経営戦略に組み込み、早期に対応を進めておくことは、他社との差別化やレジリエントな組織作りなどにおいて有効とされます。

KOAでは会社創立以来、自然や地域との共生を会社の基本理念として緑地豊かな事業所作りを取組んでおり、地域の自然環境維持に貢献しています。

### 2021年度 緑化優良工場等表彰

工場緑化を積極的に推進することにより工場内外の環境向上に顕著な功績のあった工場等を、経済産業省では「緑化優良工場等表彰」として表彰しており、2021年度KOAでは「一般社団法人日本緑化センター会長賞」を受賞しました。



#### Point

- **アカマツを中心に桜等約40種類の樹木を植栽**、地域の自然環境維持に貢献
- 樹木が生い茂る事業所の敷地内において、**毎秋感謝祭を開催し地域住民の方々を招待する**など、地域との交流活動に生かす
- **社員が心身ともにリフレッシュできる遊歩道を設置**

広大な森の中に設けられた遊歩道をウォーキングコースとして社員の健康促進に活用



シラカバ、クヌギなど多様な広葉樹への樹種転換も進み、生物多様性への取組みが進行



#### 経営管理イニシアティブ 総務センター総務グループ

ラインリーダー  
**三澤 茂保**



担当スタッフ  
**西尾 健司**



KOA本社の敷地を取囲むパインパークの森は、「自然や周辺地域との共生」というKOAの理念の、まさに象徴と言える場所だと考えています。竣工当時から豊かに茂るアカマツ(パイン)だけでなく、近年はさまざまな広葉樹への樹種転換も進めており、植生の多様化とともに四季を通して多彩な自然を楽しめる場所へと、月日を経過して進化してきています。

こうした数年掛かりの計画から、年間を通じた森の管理、毎日の草刈りや落葉清掃まで、実際に手を動かし担っているのが私たち総務グループですが、適切な手入れには、この森に対する深い知識とともに愛情が欠かせないと日々感じています。

外部からのお客様には自然豊かな景観に感動していただくことが多いですが、この場所が社員の皆さんや近隣地域の方々にも憩いの場となり、より愛されることを目指して、景観づくりの工夫とともに、今後はその魅力を伝える取組みも考案していけたらと考えています。

### 13 地域からの採用

地域における雇用創出はKOA創業当時からミッションのひとつです。それには地域での優秀な人材の育成と、その人材が活躍できる魅力的な企業の両輪が必要です。伊那谷のものづくりを支える人材育成の一環として、KOAは南信工科短大の支援に加え、中高生の職場体験を積極的に受け入れています。

### 14 郷土愛を育む

子どもたちが自分が育ったふるさとの魅力を知らないまま大人になり郷里を離れていってしまうことは、地域にとって大きな損失です。KOAは伊那谷の産学官と協同した「郷土愛プロジェクト」を通じて、子どもたちが地域の職業人と出会って地域における職業の話を聞いたり体験できる機会を提供するプログラム「夢大学」「キャリアフェス」など、郷土愛を育む活動に参画しています。

### 15 コミュニティ還元活動

KOAの事業活動は、長年にわたり地域社会から大きな恩恵を受けています。伊那谷に伝わる風習や知恵に敬意をはらい、自然と共に生きるための技やしぐまを大切に守って次世代に伝えていく伊那谷財団も、大切な活動のひとつです。また、新型コロナウイルスの感染拡大により、大きなダメージを受けている飲食店への支援を目的とした「テイクアウトマーケット」を地元の行政・商工会議所と協力し、KOA各拠点にて開催しています。



本書でご紹介した取組みの詳細や、さまざまな情報をホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

<https://www.koaglobal.com/corporate>



## 2030ビジョン

### 2030ビジョン実現に向けた KOAの挑戦



KOAは2022年4月、2030年に向けた長期ビジョンおよび2022年度から2024年度の3年間の中期経営計画を策定しました。

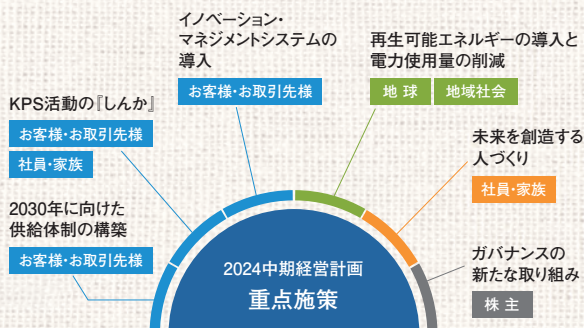
2024中期経営計画では、目標値/KPI、重点施策を公開しています。また、KOAの存在価値と提供価値をみえる化した「価値創造ストーリー」をダイアログのツールとして公開しています。

#### 2030ビジョン スローガン

Essential Parts of the World



#### 2024中期経営計画 重点施策



## 健康経営

全ての社員が心身共に健康で、明るく楽しく働けることが、KOAグループ発展のために不可欠であると考えており、健康経営に取り組んでいます。



## 製品パフォーマンス活動

持続可能な社会に貢献するものづくりを目指し、製品設計段階からさまざまな取組みを行っており、貢献内容を社内評価した結果を公表しています。



## 環境データ集

E(環境)、S(社会)、G(ガバナンス)に関する取組みの情報開示の一環として、Webサイト上で環境データ集の公表を開始しました。

国内グループの「エネルギー原油換算量」「排出物量」、グループ全体の「水使用量」の開示に加え、「Scope1(スコープ1)」と呼ばれる使用した燃料や工業プロセスから直接排出される温室効果ガスの排出量、「Scope2(スコープ2)」と呼ばれる、他社から供給された電気、熱、蒸気を使用したことによる間接排出の温室効果ガスの排出量を掲載しています。

### 〈公表情報の例〉

#### エネルギー原油換算量・原単位 ※2012年度基準

